

第4学年 道徳学習指導案

日時 平成15年6月6日(金) 5校時
学級 男子16名 女子17名 計33名
指導者 澤田 美樹子

- 1 主題名 正直に生きる(1-(5) 誠実・明朗)
- 2 資料名 「百点を十回とれば」(出典:「みんなのどうとく」学研)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

中学年の内容項目1-(5)は、「正直に、明るい心で元気よく生活する」となっている。この内容は、低学年の「うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する」を受けて、主に自分自身に対して偽りのない正直な行動をとることの快適さに気付かせ、明るく元気な生活を送ろうとする態度を育てるものである。この内容項目は、さらに高学年の「誠実に、明るい心で楽しく生活する」につながっていく。この内容項目「誠実・明朗」は、視点1の中でも大切な項目である。

正直とは、心にやましさがなく、うそやごまかしのない安定した状態のことをいう。また、明るい心で元気よく生活するとは、他の人に対してはもちろん自分自身にも正直であることによって実現できるものである。しかし、時として弱い心に負け、うそやごまかしの行為に走ることもこの時期少なくない。そこで、正直な行動が明るい生活につながることを理解させることが重要であると考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

児童は、全体的に素直な性格である。事前の道徳アンケートでは、どの項目も半数以上の児童が「いつも(よい行動が)できている」と回答しており、道徳的な価値について正しい認識をもっていると思っている。

しかし、実際の生活を見ると、必ずしもそうとは言えず、特に自分に都合の悪い場面では、言葉をにごしたりうそをついたり、ごまかそうとする姿も何度かみられる。正しい価値を理解してはいるものの、周囲からよく思われたいという気持ちから、実際の行動としてはなかなか表せないでいる現状であると言える。

そこで、心の中には、弱い自分と正直に生きたい自分の双方があるものの、自分自身や他の人に対して正直であることが、気持ちよく快適なものであることに気付かせ、明るく元気に生活しようとする態度を育てることが大切であると考え。

(3) 資料について

百点を十回とったら、サッカーシューズを買ってもらえることから、主人公は漢字練習を頑張るが、十回目のテストには、間違っていた漢字に丸がついていた。主人公は、迷いながらも正直に先生に言い、心がすっきりしたという話である。

似通った経験は児童にもあるものと予想されることから、採点ミスがあったことを正直に言うか言うまいか迷う主人公の姿に、児童自身の経験や気持ちと重ね合わせて考えることのできる資料であると言える。また、正直に言ったことで心がすっきりする主人公の姿からも、正直に生活することの快適さを感じ取らせることに適した資料である。

(4) 指導にあたって

まず導入の段階で、これまでの暮らしの中でうそをついたり、ごまかしたりしてしまった経験について振り返らせることで、どんな気持ちになったかを想起させ、本時の価値への方向付けを図る。

展開の前段では、サッカーシューズが欲しくて漢字練習を頑張る主人公の気持ちをおさえ、採点ミスを正直に言おうか言うまいかと迷う心の葛藤に共感させていきたい。ここでは、児童自身に自我関与させることで、弱い自分と正直な自分の二つが存在していることに気付かせ、弱い自分に負けてしまった時、正直な自分が勝った時どんな気持ちになるのか、十分に話し合いたい。その中で、正直に言ったことで気持ちがすっきりし、それが明るい生活につながることに気付かせていきたい。

展開の後段では、「心のノート」を活用することにより、自らの生活体験を想起し、ねらいとする価値を今までの自分に照らし合わせて考えさせたい。

終末では、教師の体験談を話すことによって、正直に生きることが快適に生活する基となることを感じ取らせ、さらに周りからも信頼を得ることになることにも気付かせていきたい。

4 本時の指導

(1) 本時の目標

うそをついたり、ごまかしたりせず、正直に、明るい心で元気に生きようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

	学習の流れ	予想される児童の反応	指導上の留意点(・)と評価(◎)
導入 5	1 うそをついたり、ごまかした時の気持ちについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ばれないかとどきどきする。 ・嫌な気持ちになる。 ・うまくごまかせてよかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うそをついたり、ごまかしたりした経験を想起することで、価値への方向付けを図る。
展開 前 段 20	2 資料「百点を十回とれば」を読んで話し合う。		
	てつろうは、どう思いながら毎日漢字練習を続けたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張って絶対にサッカーシューズを手に入れるぞ。 ・サッカーシューズが欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それまで漢字練習をしてこなかったてつろうが毎日続けて漢字練習をしていることから、てつろうの心情をとらえさせる。 ◎サッカーシューズがどうしても欲しいてつろうの心情をとらえさせることができたか。
	テストの間違いに気付いて、机にはりついたように考え込むてつろうは、どんなことを考えていたでしょう。	<p><正直な自分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずるをしてサッカーシューズを買ってもらっても嫌な気持ちになるし嬉しくない。 ・百点は、また頑張ればいつでも取れる。 ・自分のためにならない。 ・ずるがばれた時に怒られるかもしれない。 <p><弱い自分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく頑張ってきたのに無駄になってしまう。 ・正直に言ったらサッカーシューズを買ってもらえなくなる。 ・間違った先生が悪いんだから言うことはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心情図でてつろうの心情を表させ、どうしてそのように表したのか理由を問うことにより、弱い自分と正直な自分の二つの気持ちが存在し、双方の気持ちで葛藤するてつろうの気持ちに共感させる。 ◎弱い自分と正直な自分の両方が存在することに気付かせ、葛藤するてつろうの気持ちに共感させることができたか。
	どうしててつろうは、まちがって丸がついていることを先生に正直に言ったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーシューズを買ってもらえなくても、ずるをしたまま嫌な気持ちにならないほうがいい。 ・自分をごまかさず正直に言うことで、早く気持ちをすっきりさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正直に言うことのできた理由を考えさせることにより、うそをついたり、ごまかしをしたりすることは、暗く沈んだ気持ちになり、明るく生活できないことに気付かせる。 ◎弱い自分にうち勝つことができた理由について考えさせることができたか。
お母さんに、「百点より先生にちゃんとやったことのほうがうれしいわ。」と言われた時、てつろうはどう思ったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちがすっきりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親の言葉を聞いた時のてつろうの気持ちを考えることにより、正直に行動したことが、明るい心につながることに気付か 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・心が明るくなった。 ・正直に言ってよかったな。 	せる。 ◎正直に行動することが、 明るい心につながることに 気付かせることができたか。
後 段 10	3 本時の価値に照らして、 これまでの自分の生活を 振り返る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 自分が正直になれたと思うことはありませんか。その時 の様子や気持ちをかきましょう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・石を投げてガラスを割ってしま った。怒られたけれども、 謝ったら気持ちがすっきりし した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のノート」を活用し、 価値を今までの自分に照 らし合わせて考えさせる。 ◎本時の価値を自分の生活 を振り返り、照らし合わ せて考えさせることがで きたか。
終 末 5	4 教師の体験談を聞く		<ul style="list-style-type: none"> ・正直に行動することは、 明るい生活につながり、 周りからも信頼されるこ ともにもふれる

5 板書計画

正直
↓
すっきり
明るくなる

先生に話
 している
 絵

悩む
 てつろう
 の絵

サッカー
 シューズ
 の絵

正直に生きる

 百点を十回とれば

正直に言おう

- ・ ずるをしたらうらやない
- ・ ちになる。うらやない
- ・ またがばれたらうらやない
- ・ 自分がばれたらうらやない
- ・ らるがばれたらうらやない

だまっていよう

- ・ 言ったらサッカーシュー
- ・ ズが買ったのは、ぼくじ
- ・ まちがったのは、ぼくじ
- ・ やない

絶対がんばるぞ
 サッカーシューズがほしい

6 使用する「心のノート」



自分が正直になれたと思ったことはありませんか。
 なれたら、そのときのようすを下の□に書きましょう。

どのようなとき

どのようなこと

どのようなとき

どのようなこと

7 資料分析図 「正直に生きる」

場 面	登場人物の心の動き (てつろう)	子どもの意識	発問の意図／発問
<p>①遊ぶことやサッカーをすることで忙しく、いつも五十点くらいしかとれないてつろうが、母から百点を十回とったらサッカーシューズを買ってあげてもいいと言われ、漢字練習に励む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張ってサッカーシューズを手に入れるぞ。 ・ぼくだってやればできるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日練習を続けて、サッカーシューズを手に入れるぞ。 ・遊んだりサッカーしたりする時間がなくなっちゃうけど、それよりサッカーシューズが欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それまで漢字練習をしてこなかった主人公が毎日続けて漢字練習をしていることから、サッカーシューズをどうしても欲しい気持ちでいることをとらえさせる。 <p>○てつろうは、どう思いながら毎日漢字練習を続けたのでしょうか。</p>
<p>②十回目のテストで百点だったが、採点ミスがあることに気付く、正直に先生に言おうか迷う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしよう。間違っただけを先生に言わなくていい。 ・正直に言ったら、サッカーシューズを買ってもらえなくなる。 ・どうしたらいいのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ずるをしてサッカーシューズをもらっても嬉しくない。 ・せっかく頑張ってきたのに、正直に言ったら、サッカーシューズを買ってもらえなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・弱い自分と正直な自分の双方の気持ちで葛藤するてつろうの気持ちに共感させる。 <p>○テストの間違いに気付いて、机にはりついたように考え込むてつろうは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p>
<p>③正直に言うことを決心し、採点ミスがあったことを先生に言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ずるをしてまで、サッカーシューズは欲しくない。 ・やっぱり先生に正直に言わなくていい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーシューズを買ってもらって喜びよりも、ずるをして嫌な気持ちにならない方がいい。 ・もやもやした気持ちを早くすっきりさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正直に言うことのできた理由を考えさせる。 <p>○どうしててつろうは、まちがって丸がついていることを先生に正直に言ったのでしょうか。</p>
<p>④家に帰り、母に正直に言ったことを告げると、「百点よりも嬉しいわ。」と言われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正直に言うことができてよかったな。 ・ほっとした。 ・気持ちが明るくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり正直に言ってよかったな。 ・気持ちがすっきりした。 ・気持ちが明るくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正直に行動したことので快適になったてつろうの気持ちに気付かせ、価値の把握をする。 <p>○お母さんに、「百点より先生にちゃんといったことのほうがうれしいわ。」と言われた時、てつろうはどう思ったのでしょうか。</p>

11 百点を十回とれば

てつろのクラスでは、漢字テストを毎日やっている。てつろは、いつも五十点くらいしかとれない。それは、サッカーや遊ぶことにそがしくて、漢字練習の時間がないからだ。

ある日、てつろは、ひろしが百点をとったのを知って、じぶんも百点をとりたくなった。ひろしとはいちばんのなかよしだったから、負けたくない気持ちになったのだ。そのばん、てつろは、はじめて漢字の練習をまじめにした。

次の日のテストは、すらすらと書けた。家に帰ったてつろは、うれしそうに漢字テストをお母さんに見せた。

「すごいね。やればできるんじゃない。」

「ねえねえ、ごほうびは。」

「なにいつてるの。勉強はじぶんのためでしょう。でも、漢字テストで十回つづけて百点とったら、ごほうびを考えてもいいかしらねえ。」

「ほく、サッカーシューズがほしいんだけど。」

「そうね、サッカーシューズでもいいかな。」

「へへ、もえてきたぞ。」

それから、てつろは毎日熱心に漢字の練習をした。そのかいあって、漢字テストで、九回つづけて百点をとった。

いよいよ十回目。ときどきしてもどってきたテストを見ると、なんと百点だった。

「やったぞ。」

これでサッカーシューズはほくのものだ。うれしくて、何度もテストを見た。あれっ。よく見ると、「てんちをつかう」の「電池」が「電池」と書いてあるのに、丸になっっている。

（どうしよう。先生にいわなくちゃー。でも、そうしたら、サッカーシューズが……。ああ、どうしよう。）

休み時間になって、ひろしがさそいにやってきても、てつろは遊ぶ気になれず、ことわった。そうして、ひとり、つくえにはりついたように考えこむうちに、とうとう決心した。

う決心した。

（ずるをしてまで……！。そうだ。先生に正直にいおう。）

「先生、ここまちがってるのに、丸がついています。」

てつろは、先生のところに行って、そのテストを見せた。

「ほんた。よくいつてきたね。えらいぞ。」

先生は、百点を九十点に書きなおした。

百点ではなくなったけれど、てつろの気持ちはすっきりした。

家に帰って、お母さんにそのことを話すと、お母さんはいった。

「百点より、てつろがちゃんと先生にいったことのほうがうれしいわ。それに、てつろはほんとによくがんばったから、やっぱりサッカーシューズ買ってあげるわ。」

「やったあ。」

てつろはサッカーボールをもって、いきおいよく家までいった。



1 十回めの漢字テストがまちがっていることに気づいたときの、てつろの気持ちについて、考えてみましょう。

2 正直にいつてよかったな、と思ったときの気持ちを、考えてみましょう。

（森永和子作）百点を十回とれば（小学館）